

# 環境委員会等と第三者意見

## 環境委員会等を通しての組織的取組

環境報告書については、その作成を環境配慮活動の一環と位置付け、「環境配慮活動に係る担当課長会議」及び機構本部の関係各部の代表者で構成する「環境報告書作成プロジェクトチーム」で原稿案を審議・検討し、「環境委員会」で総合的にチェックする体制とし、原子力機構を挙げて環境報告書を作成しています。



環境配慮担当課長会議の様子  
TV会議を活用し、ほぼすべての拠点・事務所の  
担当課長と議論しています。



環境委員会（拠点の長等で構成）で議論中  
TV会議を活用しています。

## 環境報告書 2013 への第三者意見

1. 研究開発活動について：JAEA各拠点における研究開発活動について、現在どのような研究がされているのかが主要項目別に説明されており分かり易い。特に東電福島第一原発事故への対処に関わる研究開発については、国民全員が東日本の復興に注目している喫緊のテーマであり、多くの技術開発が進められている報告には心強いものを感じる。その成果が現場の除染対策などに早期に現れることを期待したい。
2. 環境配慮活動について：JAEA固有の環境配慮事項として、例えば放射性廃棄物の管理などは当然のこととして重点管理されなければならないが、「放射性廃棄物の管理・埋設処分」の項で具体的に説明されており、取り上げている課題は適切であると思われる。一方で、それぞれの数値、例えば放射性気体廃棄物の放出基準などについては、法令基準値を下回っているという説明だけではなく、グラフなどを用いて基準と実際値を並べて比較できる工夫や、実績表示と目標値を合わせて示すこと、達成し得なかった項目について今後どのような考えで取り組む予定であるのかも示されていると、進む方向性が読者に伝わりやすいと考える。なお、化学物質の管理についてもJAEAにとって重要な管理ポイントであるが、PRTR法などの法的規制に準拠した説明を丁寧にしており、JAEAの現状の理解に役に立つと感じた。また、環境パフォーマンスについては円グラフが効果的に使用され、読者に総合的な理解を促すことに貢献していると感じる。特に、インプットとアウトプットに大別し、JAEAの日常活動を間に挟んだ「環境パフォーマンスの全体像」は視覚的に資源の使用状況を示すことに成功しており、効果的な表現であるといえよう。全体としては、本業を通じた環境経営の方向性が具体的に示された上で、各項目の取組み状況が説明されていると、さらにわかりやすい報告書になると感じた。
3. 環境マネジメントシステムについて：それぞれの拠点における環境マネジメントシステムの活動が説明されているが、システムとしてどのような仕掛けがあり、その仕掛けが日常活動の中でどのように運用されているのかについての報告が欲しい。例えば、日常的に実施している活動について記述し、それが「担当が変わっても、設備が故障しても、変化しても…」、どのようなシステムで継続が保証されるかについての説明が欲しい。環境目標についても、年々達成すべきレベルを上げることも求められるが、一度達成した成果を維持、継続していくことがその基本にあることを組織の中に徹底していただきたい。
4. スコープ3について：温室効果ガス削減の取組みにおいて、近年「スコープ3」が国際的に注目されるようになってきた。スコープ3とは、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定の取組みのことであり、例えば組織が購入する製品・サービスが供給者組織でどのような温室効果ガスの排出に関係していたか、などを対象とした考え方である。スコープ3の概念は、温室効果ガスの削減に対してだけでなく、環境活動全体に対して有用な考え方であり、JAEA殿においても一度検討することを薦めたい。



(株)テクノファ取締役会長  
ISO/TC207 (環境管理システム小委員会) 国内委員、  
ISO/TC242 (エネルギー管理) 国内WG委員、  
ISO/TC176 ISO9001国内対応WGメンバー、  
(一社)環境プランニング学会 理事

平林良人

なお、この意見は環境報告書を読んで感じたことを記述したものであり、データの吟味、関係者のインタビューなどを経たものではないことを申し添えます。